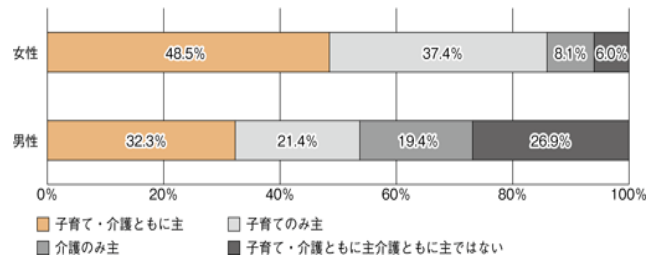


ダブルケアの問題点

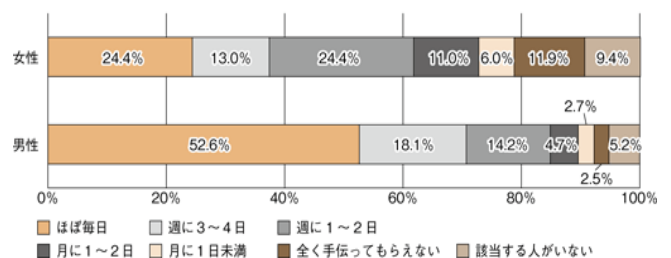
ダブルケアを行っている人を対象に行った調査では、育児・介護ともに主に担っている人の割合は女性で約半数、男性では約3割となっています。また、配偶者、兄弟、姉妹、親など「周囲からの手助けの状況」をみると、ダブルケアを行う女性は男性に比べ手助けが受けられていない状況にあります。「配偶者から手助けを受けられている」男性は半数以上となっているのに対し、女性は4人に1人の割合でしか配偶者からの手助けを受けられていない状況です。

図表5 育児・介護を主に担う者



就労している人のうち、ダブルケアを行うことになっても「業務量や労働時間を変えずに済んだ人」の割合は男性で約半数、女性で約3割、「減らした（無職になった含む）」人の割合は男性で18.7%、女性で38.7%という結果が出ています。また、「業務量や労働時間を変えずに済んだ」理由として、男性の約半数が「家族の支援が得られた」としていますが、女性では27%にとどまっています。

図表6 周囲からの手助けの状況（配偶者）



このことから、ダブルケアを行うことにより半数以上の人々が就業形態を変えなければならない、また、女性の就労により大きな影響が出ています。

（裏面へ続く）

美唄市男女共同参画推進協議会会報

デュオ

Duo

デュオとはイタリア語で「二重唱」「二重奏」を意味します。

発行：美唄市男女共同参画推進協議会事務局



育児と介護のダブルケア問題について考えよう

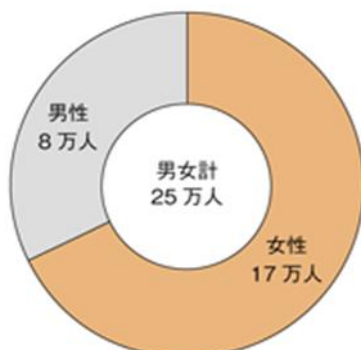
育児と介護のダブルケアとは

子育てをする親として毎日精一杯な中、親（or義理親）の健康や介護も、子としては放っておけない問題です。少子化と高齢化の同時進行が続き、特に、女性の晩婚化で出産年齢が高齢化し、親の介護と子育てを同時にしなければならない「ダブルケア人口」の増加が注目されています。

ダブルケアの現状は

平成28年4月に内閣府が発表した「育児と介護のダブルケアの実態に関する調査」によると、ふだんから育児と介護の両方を行っているダブルケア人口は約25万人（女性約17万人、男性約8万人）と推計されています。また、ダブルケアを行っている人の年齢は30歳～40歳代が最も多く全体の約8割を占めます。

図表1 ダブルケアの推計人口



（備考）総務省「就業構造基本調査」（平成24年）をもとに特別集計。

行政などへ求める支援策

ダブルケアを行う人が必要としている支援策は、「育児・介護の費用負担の軽減」「保育施設の量的拡充」「介護保険が利用できる介護サービスの量的拡充」などがあげられ、中でも「育児・介護の費用負担の軽減」をあげる割合が多く、ダブルケアに伴う経済的な負担が大きなものとなっていることがわかります。



ダブルケアに直面することは、男性・女性に関わらず日常生活において重い負担となりますが、そんな中でも、家族や周囲の支援を受けることができれば、働き続けながらダブルケアを行うことが可能となる場合もあります。しかしながら、男性の2倍とされるダブルケアを行っている女性への周囲からの支援は、男性の半分にも満たない現状です。



全国では、ダブルケアの問題を抱える人への対策として、適切なサービスを紹介できる相談窓口の設置やカウンセラーの養成、ダブルケア体験者の実体験をもとにしたガイドブックの作成などの取り組みを行う自治体や団体も出てきています。

私たちも、まずは家族への手助けや身近な地域での支援に意識を持ち、ダブルケアと仕事を両立できる社会を目指しませんか？



パネル展を開催しました

つぎのテーマで男女共同参画啓発のパネル展を開催しました。

～男で○、女で○、共同作業で◎～
 (育児と介護のダブルケアについて統計やアンケート調査の回答をまとめたパネル展示)

とき
 6月13日～19日

ところ
 市民ふれあいサロン
 (コアビバイ内)



育児と介護のダブルケア

～実態に関する調査より

初婚年齢や出産年齢が上昇し、育児世代の平均年齢が上昇する中、1人で育児と介護の二つのケアを同時に担う「ダブルケア」問題が社会的関心を集めるようになってきている。

公的統計によるダブルケア人口の推計



資料1: 総務省「国勢調査基本集計」平成25年10月1日現在(推計値)
 資料2: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計(2015年版)」(推計値)
 資料3: 内閣府男女共同参画局「平成25年度男女共同参画推進計画」

活躍を紹介します
「農業女子PJアワード2016 コミュニティ部門受賞」
内山 佳奈 さん



あなたの日頃の想いを
広く社会に発信してみませんか？



3月9日、農林水産省主催による、農業女子の活躍を発進するためのプレゼンテーション&表彰イベント「農業女子PJアワード2016」が開催され、茶志内町の内山佳奈さんが、審査の結果「コミュニティ部門」を受賞されました。

イベントでは全国500人の中から選ばれたファイナリスト5人がステージでプレゼンを行い、内山さんは男性優位が根強く残る北海道農業界で、道内各地の農業女性とLinks（リンクス）を結成し、女性の視点を活かした幅広い活動を披露しました。広大な北海道全域を拠点としてSNSなどを駆使しながら活動自らの環境を変えていこうとする行動力の高さが評価されました。

市長へ受賞報告をされた際、内山さんは「美唄の農業界では女性や若者の発言や行動は制限されることが多い。女性も外に出て見聞を広げることで自分を成長させることができる。私は家族の支えにより外へ出ることができて恵まれていると感じています。私の活動を通して、女性や若者の活動がどんな風に役立つことができるのかを具体的に示していきたいと思っています」と話していました。

北海道若手女性農業者
集団Links（リンクス）の活動はこちら
----->



DV・デートDVに悩む方のための相談窓口



市や道では、配偶者や交際相手からの暴力等に悩む方からの相談をお受けしています。配偶者の方については「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」により、専門の相談や必要に応じて一時保護、配偶者の接近禁止などの申立制度などが定められています。配偶者暴力やデートDVでお悩みの方は、下記までご相談ください。

●美唄市役所秘書広報課広報情報係 ☎0126-63-0113（平日8時45分～17時15分）

●配偶者暴力相談支援センター（空知総合振興局内）☎0126-25-5648（平日9時～17時）

デュオの会屋外活動

デュオの会の存在や活動内容を知っていただくため、8月の歌舞裸まつりと2月の雪んこまつりにおいて、来場者の方に会報配布などを行いPR活動をしています。

今後もより多くの方に「男女共同参画」について知っていただくために、さまざまな活動を行っていきますので、会報「Duo」をぜひご一読ください。



2月の雪んこまつりでの啓発活動風景

Duoの唄

このコーナーでは、男女共同参画に関するさまざまな思いを綴った唄を掲載しています。特に決まった形式ではなく、身近な生活の中で感じたことや疑問に思っていることなどを、川柳のような短い言葉で表現したものです。

会員以外の方からの唄も大歓迎ですので、自身で作った唄を、ぜひ会報に載せてみませんか？興味のある方はぜひ事務局まで。

また、掲載させていただいた方にはささやかですが景品を進呈いたします。

応募多数の場合は、作品を選定させていただきますので、あらかじめご了承ください。

手をつなぐ老夫婦
仲良いねと言えば
お互いの杖がわり
ペンネーム ひまわり

学校PTA
最近増えたね
お母さん会長
ペンネーム Y子

編集後記

今回は、6月に行ったパネル展のテーマから「介護と育児のダブルケア」について取り上げてみました。先日の新聞では、35歳以上で出産した女性の半数以上がダブルケアを経験しているとか。

幸いなことにダブルケア当事者にはならず済みそうですが、親が健在ということは、ゆくゆくは親の介護には直面するののかも。現実を見て見ぬふりはできませんが「母がまだまだ元気でありますように」と切に切に願います。（てっちゃん）

「美唄市男女共同参画推進協議会（通称Duoの会）」会員募集中！

新規会員を募集しています。男女共同参画社会づくりに向けて学習し、家庭や職場・地域で身近に取り組める実践を目的としています。興味のある方は、ぜひご連絡ください。

◆入会申込・問合せなど◆

事務局（美唄市役所秘書広報課広報情報係内）TEL 0126-63-0113へ